

公共事業継続箇所評価調査

(様式5)

評価確定日(令和6年 9月27日)

事業コード	R6-建-継-01	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業(改築)	部局課室名	建設部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)	班 名	道路建設チーム (tel)018-860-2492
路線名等	一般国道101号	担当課長名	道路課長 石川 康樹
箇所名	男鹿市浜間口	担当者名	チームリーダー 佐藤 大
プランとの 関連	戦 略	防災・減災交通基盤	
	目指す姿	交流を支える交通基盤の強化	
	施策の方向性	高速道路等の整備	

1. 事業の概要

事業期間	H 2 7 ～ R 1 2 (1 6 年)		総事業費	27.5億円		国庫補助率	0.595		
事業規模	○延長L=2,770m、幅員W=6.0(8.5)m (1.25+3.0+3.0+1.25)m								
事業の立案 に至る背景	○一般国道101号は青森県青森市を起点とし秋田県秋田市を結ぶ国道である。県沿岸部の主要拠点である能代市、男鹿市、秋田市を結ぶ主要幹線道路であり、物流や観光などの産業振興や救急医療、地域防災などの機能を担う非常に重要な路線である。 当該区間の車道幅員は狭く、車両のすれ違いが困難であり、特に大型車両の通行に大きな支障が生じている。大型観光バスによる男鹿半島周遊観光ルートの形成および第二次緊急輸送道路に指定されている本路線の機能を確保するため、早急に整備を行う必要がある。								
事業目的	○第二次緊急輸送路としての機能確保 ○バイパス整備による安全で円滑な交通の確保 ・線形改良および幅員の確保による車両等通行の安全性の向上 ・通過交通の排除による沿線住民である歩行者自転車等の安全性の向上								
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			前回評価	今回評価	増 減	理 由 等			
	事業費内訳	事業費	1,900,000	2,754,000	854,000				
		経費							
		工事費	1,535,000	2,310,000	775,000	機労材物価等の上昇に伴う増盛土材改良の増			
	内 訳	用 補 費	155,000	182,000	27,000	補償費精査による増			
		そ の 他	210,000	262,000	52,000	埋蔵文化財調査費用による増額			
		国庫補助	1,130,500	1,638,630	508,130				
	財 源 内 訳	県 債	692,550	1,003,830	311,280				
		そ の 他							
		一般財源	76,950	111,540	34,590				
事業内容			調査・設計 改良工 舗装工 橋梁工	調査・設計 改良工 舗装工 橋梁工					
事業の進捗 状況	○令和5年度末で事業進捗率52%（用地進捗率は99%）。								
事業推進上 の課題	○特になし								
関連する計画等	○男鹿市総合計画								
情勢の変化 及び長期継続の理由	○男鹿半島地域等防災・減災会議（R6年4月）								
事業効果把握の手法及び効果	指 標 名		県管理道路における道路改築率（年度）						
	指 標 式		改築率（県管理道路改築済延長／県管理道路実延長）						
	指標の種類		● 成果指標 ○ 業績指標			低減指標の有無		○ 有 ● 無	
	目標値 a		52.2%（R7末）			データ等の出典		県調べ	
	実績値 b		52.2%（R5末）						
	達成率 b／a		100.0%			把握の時期		令和6年 4月	

前回評価結果等	☒ 選定または継続 ☐ 改善 ☐ 見直し ☐ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評 価 点
必 要 性	○当該区間は幅員狭小（車道幅員 4. 0 から 5. 0 m）で、冬期堆雪帯も確保されていない。 ○縦断勾配が 8 % の急勾配区間も存在し、車両の安全な通行に支障をきたしている。	1 1 点
緊 急 性	○国道 101 号の三種町から男鹿市北部沿岸部を通る区間において、一次改良（車道幅員 5. 5 m 以上）が行われていない区間は、平成 25 年 4 月に男鹿市・三種町より移管されたメロンロード（通称）を除き当該区間のみとなっていることから、早急に改良する必要がある。 ○当該区間の一部は、男鹿市津波ハザードマップにおいて予想津波浸水域となっている。	1 5 点
有 効 性	○第二次緊急輸送道路であり、災害時の避難救助活動や救急医療施設へのアクセス道路としての活用が見込まれ、防災計画に重要な幹線道路である。 ○男鹿半島の観光地を周遊する観光道路としての活用が見込まれる。	2 8 点
効 率 性	○事業の費用便益比は 1. 0 3 であり、効率性は高い。 ・総便益の現在価値 3 1. 0 億円 ・総費用の現在価値 3 0. 0 億円 ○縦断線形見直しによる盛土量の削減によりコスト削減を図っている。	1 8 点
熱 度	○令和 5 年度末の事業進捗率は 5 2 % である（用地進捗率は 9 9 %）。	1 8 点
判 定	ランク （ ☒ I ☐ II ☐ III ）	9 0 点
	緊急性、効率性が高く、事業は引き続き実施すべきである。	
総 合 評 価	☒ 継続 ☐ 改善して継続 ☐ 見直し ☐ 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

コスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 道路改築事業（地域間交流・連携促進）

事業コード (R 6－建－継－01)
箇所名 (男鹿市浜間口)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘 要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員＜5.5m ・最小半径＜100m ・最急勾配＞4% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上	8	8	・車道幅員4.0m ・最急勾配8% ・冬期堆雪巾なし 3箇所
		2箇所	5		
		1箇所	3		
		該当箇所なし	0		
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度≧1.0 ・走行速度≦30km/h ・現道の事故率≧50件 ・重大交通事故が発生 ・通学路指定で歩道なし ・バス路線で歩道なし	3項目以上該当	7	3	・現道の旅行速度≦30km/h 1箇所
		2項目該当	5		
		1項目該当	3		
		該当項目なし	0		
	計		15	11	
緊急性	道路を取り巻く環境等				
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり	5	5	男鹿市総合計画
		なし	0		
	緊急度の高い課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、迂回路の確保 冬期通行不能区間等	あり	5	5	男鹿市ハザードマップ 予想津波浸水域
		なし	0		
	同一路線の整備状況	整備済み	5	5	
		未整備	0		
	計		15	15	
有効性	道路の位置付け				
	緊急輸送道路	第1次輸送道路	8	6	第2次緊急輸送道路
		第2次輸送道路	6		
		第3次輸送道路	4		
		指定なし	0		
	救急医療施設へのアクセス	アクセス性向上に大きく貢献	7	7	男鹿みなと市民病院
		アクセス性向上に貢献	5		
		アクセス性向上に一定の効果	3		
	観光・産業の活性化	活性化に大きく貢献	7	7	入道崎 男鹿水族館GAO
		活性化に貢献	5		
		活性化に一定の効果	3		
	社会変化による事業の必要性	必要性が高い	8	8	男鹿半島地域等 防災・減災会議
		必要性が低下傾向	4		
		必要性が著しく低下	0		
	計		30	28	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比（B/C）	1.0以上	5	5	1.03
		1.0未満	0		
	計画交通量	4,000台/日以上	5	3	1,100台/日
		1,000台/日以上4,000台/日未満	3		
		1,000台/日未満	0		
	コスト削減	あり	5	5	縦断線形見直しによる盛土 量の削減
		なし	0		
	事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	etc 大規模バイパス etc 部分的ミニバイパス etc 現道拡幅
		既投資額の部分的損失	4		
		既投資額の損失が少ない	3		
	計		20	18	
熟 度	事業の進捗状況				
	事業の進捗（事業費）	8割以上完了	10	8	52%
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	用地買収の進捗（面積）	8割以上完了	10	10	99%
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
		未着手	0		
	計		20	18	
合 計			100	90	

2. 判 定

ランク	判定内容	配点	判定	摘 要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		